



平成 18 年 2 月 20 日

各 位

所在地 東京都港区六本木六丁目 8 番 10 号
会社名 オリコン株式会社
代表者名 代表取締役社長 小池 恒
(コード番号 4800 大証ヘラクレス市場)
問い合わせ先 執行役員企業広報部長 日高 輝明
TEL 03-3405-5252 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 17 年 6 月 7 日に公表いたしました平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期通期連結業績の予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	7,100	700	415
今回修正予想 (B)	5,700	620	330
増減額 (B-A)	△1,400	△80	△85
増減率 (%)	△19.7	△11.4	△20.5
(ご参考) 前期実績 (平成 17 年 3 月期)	5,873	131	31

2. 修正の理由

最近の業績および動向等を鑑み、特に以下の事由により、当期の連結業績予想数値を達成できない見込みとなりましたので予想数値を修正いたします。

(売上高)

- ① 通販事業を行うフランクリン・ミント(株)については、平成 17 年 5 月より当社の連結子会社となりましたが、当社が営業譲受けする前の平成 16 年 12 月期および平成 15 年 12 月期の売上高が、それぞれ 1,924 百万円、2,152 百万円であったことから、当期の通期売上高を 1,500 百万円と見込んでいました。しかしながら、例年、クリスマスシーズンが年間売上のピークとなる第 3 四半期に、商品ラインナップが不十分であったこと等が影響して販売が低迷し、通期売上高見込みが 650 百万円（前回予想比 850 百万円減）となりました。売上高未達は、当社が営業譲受けする直前に日本国内での営業を縮小し、社員の削減、商品ラインナップの絞り込みを行っていたことに起因するところがあり、既に要員補充を含め、事業を回復させるための施策を継続的に講じておりますので、来期以降、本格的に販売が改善する見込みです。
- ② シネウェルカム社の通期売上高を 600 百万円と見込んでおりましたが、K-1 コンテンツなどの B to B での売上は拡大したものの、規制当局によるコンテンツの審議基準の見直しによる影響、

DMB（携帯電話向けデジタル放送）等の新サービス開始による影響等によって、定額性およびペーパービューの売上高が共に予想を下回り、通期売上高が 420 百万円（前回予想比 180 百万円減）となる見込みです。

- ③ 携帯電話向けコンテンツ販売の有料会員数が減少していることから、当期の売上高を前期比 150 百万円の減少と見込んでおりましたが、さらに予想を下回って推移し、通期売上高において前期比 300 百万円の減少（前回予想比 150 百万円減）となる見込みです。
- ④ 当期第 4 四半期に予定していた「オリコンチャートブック（仮称）」およびアーティスト写真集の発行が、来期に延期になったため、これらの売上高 90 百万円を来期に持ち越すこととなりました。

なお、前回開示した連結業績予想において既に盛り込んでおりますが、前期において連結子会社であった㈱フローバ（前期売上高：1,581 百万円）およびパトリス・ファール・ジャパン㈱（前期売上高：84 百万円）については、前期末までに株式売却を行ったため、当期においては連結除外となっております。

(利益)

前期に音楽配信サービスなどインターネット関連の新規ビジネス立ち上げに要したコストを当期中に削減したことを主たる要因として、当期は前期と比べ、大幅な増益となる見込みです。当期においても、ATRAC に対応した音楽配信サービスの開始、インテル®Viiv™テクノロジー向けのコンテンツ配信サービスの開始、ORICON STYLE サイトでの無料動画番組の配信開始等、新たなサービスを展開するために必要な投資を行って参りましたが、グループ全体でのコストの見直しを積極的に行って、コストの削減を早急かつ果敢に実施したことが奏功し、これらの新規投資分を吸収することができました。しかしながら、上述事由による売上高減少の影響、および当期純利益については遊休資産売却損、投資有価証券評価損等が生じたこと等によって、予想数値を達成できない見込みとなりましたので、予想数値を修正いたします。

今後につきましては、現在、当社グループで注力いたしております ORICON STYLE サイトを中心としたインターネットメディア事業を拡充し、これを雑誌メディア、携帯メディアが補完し合うことで、グループ全体の収益力を向上させて参ります。現在、ORICON STYLE サイトのユニークユーザー数およびページビュー共に飛躍的な増加傾向を示し（平成 18 年 1 月度 月次ユニークユーザー数：412 万人、月次ページビュー：5000 万、ネットレイティングス社サイトセンサス調べ）、これに伴って当サイトの広告売上が増加しており、当期に配信開始した「ORICON TOP20」などの当社オリジナルの無料動画番組への動画広告売上も、来期、業績へ本格的に寄与する見込みです。また、当期に当社の傘下となった連結子会社については、来期も引き続き、当社主体による経営改善を鋭意推進し、収益性を高めて参ります。さらに、グループ全体のコストの見直しを一層徹底させ、収支の改善を図る方針であります。

なお、来期（平成 19 年 3 月期）の業績予想に関しましては、当期決算の発表時に正式公表する予定です。

(注) 上記の業績予想等は、現時点で入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

(注) インテル、Viiv は、米国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の登録商標または商標です。

以上